

# 健康で人生に ヨロコビを

社員みなさんに、健康の秘訣や注意していることなどをお聞きしている「健康で人生にヨロコビを」。第6回はマルハン健康保険組合、理事長の田端直樹さんにご登場いただきました!

マルハン健康保険組合  
理事長 兼 常務理事 **田端直樹**さん

## 運動についてお聞かせください

中学生のころは軟式テニス、大学時代にはバドミントンをしていました。

30年くらい前に、今住んでいるマンションに引っ越したのですが、マンションに硬式テニス部があり、その時から硬式テニスを始めました。それから現在に至るまで週末にテニスをしています。以前はマンションの住人だけが会員でしたが、会員の高齢化等も進んできたため、現在は若手の近隣住民の方にも加入していただいています。活動としては対外試合に出たり、合宿をしたり、懇親会を開いたりと多彩な活動を行っています。2年前にはマンション建設のため自前のコートがなくなりクラブ消滅の危機になりましたが、このコミュニティを大切にしたいというメンバーの思いが強く、若い世代を中心にクラブを再結成し現在に至っています。

ずっとテニスをしているお陰で、病気になったことはありませんし、前期高齢者になった現在でも動ける体を維持できていると思います。また、テニスを軸に会員のほかに近隣マンションのクラブの方々とコミュニケーションも活発になり、地域社会にたくさんの仲間ができました。これもテニスを続けてきた効果だと思っています。



## 食事についてお聞かせください

栄養面などは、あまり気にしていません。好き嫌いは特になく、何でも食べます。朝は納豆や焼き魚、味噌汁など和食が多いですね。昼は軽めにサンドイッチなどを食べています。休肝日の夕食は、妻が作ってくれる食事を摂っています。必ず野菜を出してくれますのでとてもありがたいと思っています。お酒については、飲むと太るので、昔から週に3回の休肝日を

設けるようにしています。お酒のつまみについては、特に気にせずなんでも食べていますがサラダは必ず食べることと食べ過ぎないことに注意しています。

## 今後の目標についてお聞かせください

会社を辞めたら、国内、海外問わずたくさん旅行に行きたいと思っています。まずは南の島でも行って1~2週間過ごすことを決めています。暖かく穏やかな島で海でも眺めながらゆったり過ごすことで、40年以上にわたる社会人生活を一旦リセットしたいと考えています。そうすることで今の自分と向き合い、今後の人生の過ごし方など考えて帰ってきたいですね。勿論その他にも行きたい所はいっぱいありますよ。絶対に行きたいと思っているのは、オーロラを見に行くことと、エジプトで古代文明に浸ってくることです。そのほか小さい時から憧れで絶対に挑戦したいと思っていることはありますが、ここでは内緒にしたいと思います。

## 読者のみなさんへ一言

私は、テニスを通じて健康の維持、向上だけでなく地域の方々と交流する機会を持つことができました。仕事関係ではない、趣味を通じたコミュニティは、上下関係もしがらみもない関係です。色々な世代の、様々な仕事・活動をしてきた方々は、自分にはない知識、経験をたくさん持っています。そうした方々と交流できることは、とても刺激的で楽しいですし、自分自身の成長にとっても役立っていると思います。テニスに限らず、スポーツや趣味などを通じて、地域社会の人々と交流する機会を持つことを是非おすすめしたいです。



2007年4月1日、マルハン健康保険組合が設立されました。2027年4月に20周年を迎えるにあたり、設立準備に従事され、現在は理事長及び常務理事を兼任されている田端理事長に、これまでのマルハン健康保険組合、これからのマルハン健康保険組合についてお話を伺いました。

## 健保設立の経緯

私がマルハンに入社したのは2005年4月でした。その当時、設立母体である(株)マルハンでは創立50周年の記念事業として健康保険組合を設立したいという意向がありました。その後話が進展し私が担当となり設立に向けたスタートを切りましたが、当初言われたのは、まずは当社が健保組合を設立することが良いのか否か、そこの議論から始めて欲しいということでした。

当時、国では年金記録問題が浮上り社会保険庁解体が取り沙汰された時期でもあり、環境的に不安定だったため、単独で設立するのではなく、一旦、既存の他の総合健保組合に加入し、その後状況が良くなれば設立を検討してはどうかという結論になりました。

ところが、是非健保組合を設立したいという藤原専務取締役の強い思いもあり、結果的には2006年3月に設立に向けた準備をスタートさせました。当時、一般的には健保組合の設立には2年程度はかかると言われていた中で順調に事が運び会社の50周年に間に合うように1年で設立することができました。

健保組合設立のための折衝は厚生労働省の地方支部部局である関東信越厚生局と行いますが、一般の事業会社であれば、着手から完成までの基本的な段取りがあるものですが、健保組合の設立は国の認可事項であり厚生局は認可までのスケジュール感やゴールまでの道のりを教えてくれません。手探りの中、先方から依頼された資料を作って提出するのですが、次はこの資料を出してと言われて…というやりとりが続きました。結局設立認可の可能性について言及を受けたのは設立の2か月前くらいだったと思いますが2007年4月1日、スタートから約1年で無事設立することができました。

## 健保の歩みについて

設立当初は、初代常務理事である大井さんと共に体制を作ってきました。しかし、設立後は順調な道程とは行かず、3年目くらいに大きな法律改正があり、高齢者に対する納付金、支援金のしくみが変わったことが原因で、一気に財政が厳しくなりました。設立から年数が経っていないため、十分な積立金が積み上がっていない中、高齢者に対する拠出金負担額が急激に増加し、数年で積立金が底をついてしまいました。

保険料率を上げるとともに経費を削減する一方、健保組合設立後に加入してもらった子会社の2社についても財政負担が大きく、脱退してもらうことをお願いしに行ったのがとても辛かったです。また、健保組合内でもリストラを行い、人員削減や京橋地区(千代田区)から賃料の安い田原町(台東区)に事務所を移転しました。それでも収支が改善しなければ一時は解散を覚悟するまで追い詰められましたが、対策が功を奏しその後は収支も改善し、現在は十分な積立金を確保しながら安定的な運営を行うことができています。

## これからの健保に期待すること

健保組合の存在感を感じてもらえるのは保健事業だと思っています。高額医療費の個人負担上限額を抑えていることや予防接種、人間ドックの補助金支給、健康づくり対策として大人のスポーツテストの開催など行っていますが、会社のやっている事業だと勘違いされるなど今一つ存在感が薄いと感じています。

社員みなさんには健保組合のことをもっと知って欲しいですね。

一方、健康リテラシー向上のために、健保組合ができることはまだまだあるのではないかと考えています。

医療費を抑制していくためには、病気にならないための取り組みがとても大切です。保健事業を多くの人々が利用し、医療費が抑制され、そこで節約された費用をさらに保健事業に投じることができるといった良い循環ができればいいですね。

## 健保組合事務所周辺の 名所を訪ねました



▲最近外国人観光客に人気のかっぱ橋。



▲浅草のランドマーク・雷門。



▲事務所周辺など、色々な所からスカイツリーが見られます。